

## 学校花壇の部

### 総 評

審査は7月20日と21日に行いました。21日は梅雨明けとなりました。対象となった10の学校花壇では、子どもたちや教職員の熱意に支えられて、彩り豊かな花々が育っていました。

これまでの花壇の土に腐葉土などを入れて混ぜ込み、土壌の改良に積極的な取り組みが見られた学校があった一方、今年の局所的大雨で、排水で困ったインパチェンス等の生育に少し課題の残る学校もありました。苗ポットを切り開いていくつかを繋いで除草シートとして活用する学校があり、SDGsの取り組みであると感じました。

それぞれの学校では花壇のテーマが設けられており、子どもの笑顔等を表すもの、創校150年のお祝いとするもの、平和を願うものがありました。学校では、市や町などから支給された苗だけでなく、色や高さを考えて購入した苗も入れて、立体的な構成や色彩配置に工夫がありました。また、花壇作りの目標では、子供たちの学習に活かし、複数学年の活動の場として、協力性や花を育てる心事があげられていました。ある学校では、子どもたちの心が育つことを目標とし、教科・総合的な学習等の時間を使い、異学年交流や委員会活動などで有効な取り組みが紹介されていました。花壇につけられた花の名前に目を留めて低学年も関心を示して花育てにかかわっていること、土耕し等に保護者やグリーンキーパーの方々の指導と支援を得て成果が挙げられているなど、学校花壇をめぐる豊かな人々の交流が生まれており、花壇づくりが子どもたちの心を育てる活動となっていると感じました。

今後に期待することとして、数校のみに該当しますが、植物の生育状況を細かに観察しながら、灌水や手入れをすること、特に土の改良や花壇の排水を改善することを提案します。

### 最優秀賞評

ぶんえん

「元気いっぱい！！キラキラ文焉花壇」を今年度のテーマにして取り組んだ『黒部市立石田小学校』が最優秀賞を受賞しました。

石田小学校は昨年も優秀賞に輝き、花壇の美しい伝統的な学校です。今年も6年生の花プロジェクトチームが中心になり、活動を一層向上させました。どの植物も生育状況が素晴らしかったです。校章の形の花壇の中央に太陽のように元気な子どもたちを、横には石田の海のデザインが目を引き、赤・黄のビタミンカラーの中央と、白紫の石田浜のさわやかな色合いが対照的でした。冬越ししたシロタエギクも各所に生かされ、グラウンドからの入口ゲートも見事でした。学校側の小池に植えられた蓮が丁度薄ピンクの美しい花卉を開いていました。色調や高低をうまく考えた花々が効果的にデザインされていました。植栽計画を見ると、気温と降水量をチェックするなど植物の育ちを細やかに観察しながら、灌水や施肥、摘花等の作業を位置付ける等、高い指導性が伺われました。

保護者と教職員、または地域のグリーンキーパー、公民館の方々の指導をいただきながら、各学年の子どもたちが力を合わせて出来あがった「元気いっぱい！！キラキラ文焉花壇」の生育は、まるで子どもたちが手を繋いで背伸びをしているようです。これからも学年を進めながら全校でかかわる花壇の活動で多くの学びや発見があることを願っています。この花壇を地域の多くの方々に見ていただく機会をつくり、子どもたちと保護者や地域の方々のかわりが一層豊かなものになるようにと期待いたします。

(審査委員長 五十嵐 俊子)